

新京報報道（記者 温霽） 12 月 1 日は、第 26 回世界エイズデーだ。北京市衛生局は、昨日北京のエイズ流行の状況に関して発表した。1985 年からこれまでに報告された北京の HIV 感染者及びエイズ発症患者累計は、15,183 人となり、現存者数は 7,202 人となっている。最近 6 年間に報告されたエイズ病患者のうち、96.7%は性感染であり、**そのうち 7 割が『男性と男性の同性愛行為者』**（宮本注：二重カギかっこは宮本）であった。

高い流動人口が占める割合

昨日、北京市愛国衛生会張建枢副主任は、「北京市は、1985 年に全国で初のエイズ患者の報告がなされて以後本年 10 月 31 日までに報告されたエイズウイルス感染者及び発症者の累計は 15,183 人となる。うち、北京戸籍を有するものは 3,164 人で、全患者の 20.8%を占めているが、他の省から及び外国籍が 12,019 人もいる」と発表した。

エイズ患者のうち、流動者グループの占める割合が高くなっている。張建枢副主任は、このグループの特徴として、各種予防治療措置を講じることが非常に難しいと語った。

『エイズ患者の報告数は明らかに増加している』張建枢副主任は、本年、北京で新たに 2,418 人の患者が報告され、昨年同期の 2,031 人と比べ 19%増加している。2008～2012 年の感染報告データもまた、北京のエイズ患者報告数が平均で 24.3%増加しており、『流行は明らかに上昇している趨勢』にあると語った。

異性間の伝染率は 3 割程度

この他、2008～2013 年の連続 6 年間、エイズの前哨ポイントでの観測結果では、北京の男性間の性行為によるものの比率が高く、最近数年間は連続で 5%を超える水準で流行していたが、今年には既に 10%に達している。

張建枢主任は、「性感染が北京市エイズ伝染の主な感染ルートである。2007～2013 年（10 月末まで）に報告されたエイズウイルス感染者と患者のうち、性感染によるものが 41.5%から 96.7%に上昇、明確な上昇の趨勢がみられる」とした。

うち、**男性間の性行為者の割合が大きく上昇**しており、既に 2006 年の 22.8%から 2013 年（10 月末まで）の 69.1%となっており、異性間の性感染比率（27.5%）を大きく上回っている。彼は、これらのグループにはハイリスク行為の改変は困難であり、特にエイズ関連の検査を公衆衛生サービスと受ける割合が低い現象があり、エイズの早期発見、早期報告、早期管理がしにくいと語っている。

この他、最近北京の 60 歳以上の老人のエイズウイルス感染者数が増加の趨勢にあり、2007 年の 17 人から 2013 年の 10 か月で 80 人に増加している。老人のエイズ患者中、98.8%は性感染によるものだ。

■措置

北京市はエイズ防止の微博国民プラットフォームを開設

北京市衛生局の鐘東波スポークスマンは、「これまでのところ、北京にある 16 の区県では既に検査ラボを設置し、総数は 2008 年の 151 か所から 2013 年の 213 か所に増え、エイズの迅速検査を 8 か所共同で開設している。全市の 4 つのエイズ抗ウイルス治療病院では、現在成人 4,349 人、子供 12 人が治療を受けている」と語った。

彼は、「北京市は全面的に社区のエイズ性病を重点に関与活動を推進しており、西城、海淀、豊台、大興の 4 つの区がエイズ総合予防治療モデル地区として、婦人に対する対面宣伝教育や流動者へのエイズ予防治療管理等のサービスを提供している。

この他に、エイズ予防治療の知識普及や国内外エイズ病科研の進展などの公布の為に、北京市は bjrocc という『首都レッドリボン』微信（テンセント社が開発したもので、2011 年 1 月に中国で微信のサービス開始。同年 4 月、海外向けに "WeChat" として展開された。ユーザーは 4 億人に達し、中国国外には 1 億ユーザーが存在）の市民用のプラットフォームが構築されている。

北京近 6 年艾滋病例年增逾 20%

新华健康网

news.xinhuanet.com

2013-11-29

07:57:41 来源： 新京报

新京报讯（记者温霁）12月1日是第26个世界艾滋病日。昨天，北京市卫生局公布京城艾滋病疫情称，自1985年至今，北京已累计报告15183例艾滋病病毒感染者及病人，现存活7202例。近6年间报告的艾滋病病例中，96.7%来自性传播，其中近7成成为男男同性性行为者。

流动人口占比居高不下

昨天，北京市爱卫会副主任张建枢介绍，北京市自1985年报告全国首例艾滋病病例以来，截至今年10月31日，累计报告艾滋病病毒感染者及病人15183例。其中北京户籍有3164例，占全部病例的20.8%，外省及外籍12019例。在艾滋病病例中，流动人口所占比例居高不下。张建枢坦言，由于流动人口自身的特点，针对该人群的各项防治措施较难有效落实。

“艾滋病报告数字明显上升。”张建枢介绍，今年，北京新报告2418例病例，较去年同期的2031例增加了19%。2008-2012年的疫情报告数据也显示，北京市艾滋病报告数字平均增幅为24.3%，“疫情呈明显上升趋势”。

异性传播比例占近三成

另外，2008-2013年连续6年的艾滋病哨点监测结果显示，北京男男性行为人群感染率较高，近几年连续超过了5%的高流行水平，今年已达到10%。

张建枢介绍，经性传播是北京市艾滋病传播的首要途径。2007-2013年（截至10月底）报告的艾滋病病毒感染者和病人中，经性传播所占比例从41.5%升至96.7%，呈明显上升态势。

其中，男男同性性行为者的比例上升尤为明显，已从2006年的22.8%增至2013年（截至10月底）的69.1%，明显高于异性传播所占的比例（27.5%）。他表示，这一人群还存在高危行为改变困难，接受公共卫生服务特别是艾滋病病毒相关检测的比例较低等现象，均不利于艾滋病的早发现、早报告、早管理。

此外，近年北京报告60岁及以上老年人艾滋病病毒感染者数量呈增多趋势，从2007年的17例，增加到2013年前10个月的80例。老年人艾滋病病例中，98.8%来自性传播感染。

■ 措施

北京开通防艾微信公众平台

北京市卫生局新闻发言人钟东波介绍，截至目前，北京16个区县都已建立筛查实验室，总数从2008年的151家上升至2013年的213家，还统筹建立了8家艾滋病快速检测点。全市4家艾滋病抗病毒定点医院中，目前在治成人4349人，儿童12人。

他表示，北京市正在全面推广社区艾滋病性病重点人群干预工作，在西城、海淀、丰台、大兴4个区建立艾滋病综合防治示范区，开展妇女面对面宣教、流动人口艾滋病防治管理等服务。

另外，为了普及艾滋病防治知识、公布国内外艾滋病科研进展等，北京已开设“首都红丝带”微信公众平台，微信号为bjroc。